# 矢作川流域圏懇談会通信

R1 海部会編 vol. 4

発　行　日：令和２年 １月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第 11 回海部会まとめの会を開催しました！

今回は、懇談会設立 10 年の活動成果を振り返るとともに、次年度の計画について話し合いました。また、話題提供として吉田漁協の石川組合長より、西三河ののり漁場栄養塩調査結果についてご報告いただいたほか、愛知・川の会の近藤事務局長より、22 世紀奈佐の浜プロジェクトの近況をお話いただきました。

日　　時：令和元年 12 月 24 日（火）　15:00～17:00
場　　所：西尾市役所会議棟　第 4 会議室
参加人数：20 名（事務局を含む）

## ◆主な活動内容

### 1　10 年間の活動成果と次年度の目標について

◆矢作川流域圏年表（海部会編）の作成について
今年度、海部会では1950年（昭和25年）以降の矢作川流域について、海の視点から年表を作成してきました。その結果を共有するとともに、全体会議に向けた修正点等を検討しました。

◆10年間の活動の成果と課題について
事務局より、10年間に開催された42回の海部会や勉強会に関する一覧を提示し、改めてこれまでの活動成果や新たに生じた課題について、意見交換を行いました。

◆今年度の活動の振り返りと次年度の目標について
これまでの活動成果や課題をふまえ、次年度の目標を設定しました。

### 2　他部会に紹介したい事柄・場所について

市民部会が計画する次年度の勉強会の候補地について、海部会の意見をまとめました。その結果、海部会としては以下の希望を市民部会に伝えることになりました。

第一候補：アサリの漁獲量の現状を把握する（トンボロ干潟・吉田漁協）
第二候補：矢作川浄化センターを見学し、栄養塩類の放流状況を把握する
第三候補：鳥類をはじめとする海の生き物の現状を把握する

### 3　話題提供①：のり漁場における栄養塩調査結果について

吉田漁協の石川組合長から、愛知県下すべてののりのサンプル（実物と単価が記された用紙）をご提供・回覧いただき、栄養塩類がのりに与える影響についてご説明いただきました。のりは、乾燥状態で乾いてしまっても水に戻すと光合成を回復する強い生命力があります。一方で、栄養塩が少しでも不足すると、色と風味がすぐに低下し、売り物として流通させることができない弱い生き物です。
矢作川浄化センターの栄養塩の試験放水の結果、品質面での向上がみられました。
愛知県には今後とも継続した栄養塩の放流と水質試験をお願いしたいです。

### 4　話題提供②：22 世紀奈佐の浜プロジェクトについて

愛知・川の会の近藤事務局長から、三河湾を含む伊勢湾流域で活動する「22世紀奈佐の浜プロジェクトの実施状況についてご説明いただきました。奈佐の浜プロジェクトは、伊勢湾地域を発生源とする流下ごみに対して、その改善方法を検討するため、今から8年前に設立されたものです。当初は、流下ごみの現状を把握するため愛知岐阜三重のさまざまな場所をまわりました。2012年からの8年間で、16回の現地活動を行い、のべ4,000人にご参加いただいています。今年度は、長良川（100人）と奈佐の浜（200人）で実施しました。最近では、次世代の担い手を育成する場にしたいと考えていて、参加者200人のうち、半分以上を大学生以下が占めている状況です。また、マイクロプラスチック問題にも取り組んでいます。2020年は長良川国際会議場で全国大会（8月8日～9日）を実施します。是非ご参加ください。

## ◆話し合いでの主な意見　（• 意見　➢回答）

### ●10年間の活動成果と次年度の目標

【矢作川流域圏年表について】
- 干潟面積が増加しているが、中川水道由来の砂の敷設によるものか。干潟の定義と範囲が欲しい。（髙橋）
  - ➢ 1998 年に海域環境創造事業（シーブルー事業）が開始し、中山水道を浚渫し、その発生土によって干潟・浅場が形成された。その面積が約 620ha だ。グラフはその分をちょうど足したかのようだ。（石田）
  - ➢ 文献には干潟の定義が調査時期によって曖昧であり、単純に比較できないことが示されている。（事務局）
  - ➢ もともと干潟や浅場が広がっていた衣浦湾の工業地帯は、その後の造成で全部土砂に埋った。（髙橋）
- 透明度とは、どこの場所の測定値か明記してほしい。また、のりの収穫量とアサリの漁獲量の推移には、六条潟からの稚貝の移動により効率的な生産が可能となり、のりの養殖からアサリ漁に切り替えた人々もいると考えられ、すべてが自然環境に由来するものではないと思う。（井上）
  - ➢ 一人の漁師がのりの養殖とアサリ漁を同時に行っていたケースが多い。（石田）
- 今回の議論については、年表に含めるべきか、注意書きを別紙に記載すべきがご助言をいただきたい。（事務局）
  - ➢ 解説を付けたほうが良いと思う。それから、海鳥の状況についても加えてはどうか。（石田）
  - ➢ シギの総数、カモの総数はグラフとして公表することは可能だ。（髙橋）
- ヘルシープランには、水温などの物理的推移も掲載されていたと記憶している。追記してはどうか。（青木）
  - ➢ 調べて掲載したいと思う。（事務局）

【10 年間の活動の成果と課題について】
- 豊かな海の再生で、「透き通った海≠豊かな海」と言い切るのは少し乱暴かと思う。（井上）
  - ➢ 確かに透き通って豊かな時もあれば、濁っていて豊かな時もある。何が何でも透き通った海にするという方向性は危険を伴う。（石田）
  - ➢ 「≠」の表現は意味が変わる恐れがあるので「透き通った海=豊かな海ではない」という表現に変更する。（事務局）
- 設立当時は透き通った海にしたいと邁進していた。10 年が経ち、それが間違っていたと気づいたのも継続した懇談会の成果である。（青木）

【今年度の活動の振り返りと次年度の目標について】
- 以前、議論していた「ごみ」について、マイクロプラスチックなどの議論を検討する必要がある。（青木）
  - ➢ マイクロプラスチックは手で拾って除去できるものではない。水質の問題として新たに捉えるべきだ。（近藤）

話題提供：ケイ素について《伊勢・三河湾流域ネットワーク　世話人　井上祥一郎氏》
私はこの 10 年、一貫してケイ素の必要性について訴え続けてきました。アサリの餌としてプランクトンの中でもケイ藻が大事であることは、水産に携わる人々は知っていて、それは窒素・リン酸と同様に必須なものです。ケイ素は雨水中にはなく、山林からの湧水として流出します。栄養塩類とは出どころも循環形態も異なるため、なかなか調べられない物質です。しかし、ケイ素は生物にとって重要な物質であると考えているので、10 年目として改めて周知したいと思います。

### ●他部会に紹介したい事柄・場所

- 干潟の砂の状況や鳥などの生物を見て、矢作川浄化センターをまわるというのが良いかも知れない。（青木）
- きれいになった海を船から見てもらってはどうか。三河港湾事務所に検討いただけないか。（青木）
  - ➢ 海からの視線は大切だと思う。ただ、船には定員（15 名程度）があるため検討が必要だ。（田村）

### ●話題提供①：のり漁場における栄養塩調査結果

- 栄養塩類の試験放流は、継続して行うのか。（近藤）
  - ➢ 日間賀島、篠島などの養殖漁場では死活問題となっており、愛知県漁連として県にお願いしている。（石川）
- 栄養塩の試験放流は、のりの養殖にとって効果が出ているということでよいか。（青木）
  - ➢ 品質面で価値が上がっていると感じている。（石川）

### ●話題提供②：22世紀奈佐の浜プロジェクト

- 奈佐の浜プロジェクトには、矢作川流域圏懇談会として過去に 3 回ほど出席いただいている。確か、春に西の浜で、秋に奈佐の浜で行ったと思う。（近藤）
  - ➢ 西の浜での活動については、今でもよく覚えている。（青木）

## 今後の流域圏懇談会の予定

■第９回全体会議　（日時）令和２年２月25日（火）　14：00～16：30
場所：愛知県西三河総合庁舎　１０階　大会議室


**◆お問合せ◆**
**矢作川流域圏懇談会事務局**
〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 神本、指導員　宇野
TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100

**＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。**